

Ⅳ 加瀬澤による報告

1 環境教育事業

1-1 環境教育事業一覧

「現在、温暖化や自然破壊など地球環境の悪化が深刻化しており、環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題となっている」（文部科学省、環境教育より引用）ため、環境問題や環境保全に主体的に関わることができる能力や態度を育成する“教育”の役割が、より一層重要になってきています。環境教育とは、環境問題解決のための教育であり「自然の中で（in）自然について（about）自然のために（for）」という3つの要素があると整理されており、この要素を対象者に合わせてバランスよく含んだものであるとされています。

環境教育を推進することは、人が生きていく上で必要不可欠である自然に目を向けて、自然に学び、自然と折り合いをつけながら生きていく方法を自分なりに考え、実践する人を育てることになります。さらに、自然に学ぶ実体験は、個人がより良く生きていくための手掛かりとなります。しかし、環境教育の成果は目に見えにくく、すぐに表れるものではないことから「未来のための教育」と捉え、事業を継続することが重要です。

また、森林レンジャーあきる野は「森林レンジャーあきる野新聞」や「森林レンジャーがゆく（市広報）」において、市内外の方に向けて自然についての発信を続けています。

次の表は、年度ごとの事業一覧です。

〈令和4年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数（人）	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	10	45	646
2	森の子コレンジャー活動	10	—	88
3	講演、研修、ツアー	6	25	44
4	市の森づくり事業	1	18	—
5	出展	2	—	
合計		29	866	

※ コロナ感染症対策のため中止1件（No.3）

〈令和５年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数（人）	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	11	57	709
2	森の子コレンジャー活動	9	—	80
3	講演、研修、ツアー	8	615	13
4	市の森づくり事業	2	15	—
5	出展	2	— (出展時の観察会に3)	
合計		32	1,492	

※ 天候不順のため中止２件（No.2、No.4）

〈令和６年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数（人）	
			大人	小人
1	森の子コレンジャー活動	10	—	88
2	講演、研修、ツアー	7	99	69
3	市の森づくり事業	2	22	3
4	出展	2	—	
合計		21	281	

1-2 主な事業内容

(1) 市内小学校体験学習

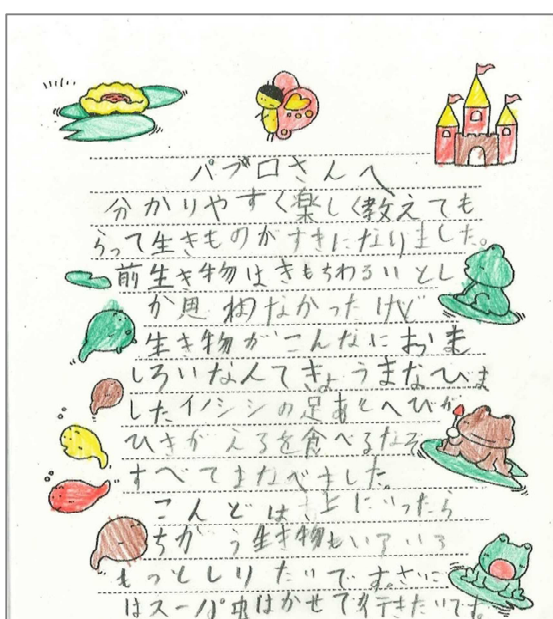
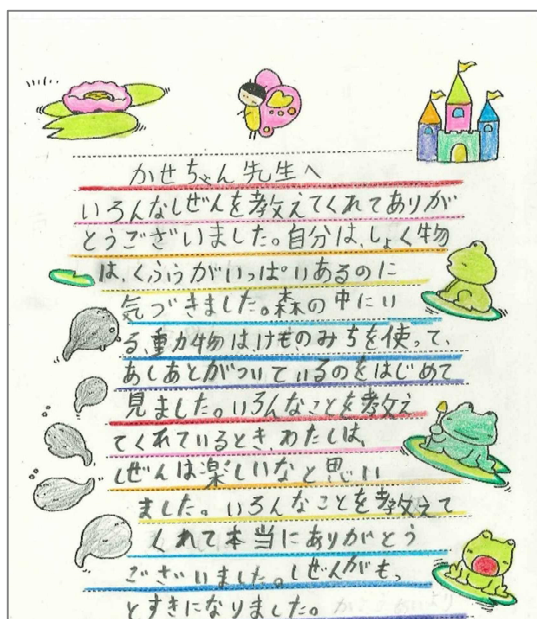
平成24年度から、市内小学生に向けて小宮地区体験学習を実施しています。

学習の場は、平成24年3月に閉校した小宮小学校を活用して実施している「小宮ふるさと自然体験学校」を利用しています。使用するルートは、郷土の恵みの森づくり事業において、地域住民、森林レンジャー、サポートレンジャーが復活させた昔道や観察場所などです（体験学習の詳細については、過去の活動報告書を参照）。



令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として「できるだけ少人数のグループで実施する」「住宅地を歩く際はマスクを着用する」「人との距離を確保する」などを継続して体験学習を行いました。令和5年度からは、ようやく通常の体験学習を実施することができました。令和6年度より体験学習は小宮ふるさと自然体験学校の指導員が実施していますが、森林レンジャーあきる野は、要望があれば出前授業として「市の自然を次世代につなぐ学習」を継続しています。

○ 体験後にいただく感想文



（２）森の子レンジャー活動



森の子レンジャー活動は、平成23年度から実施しています。「自然愛や郷土愛を持った次世代を育てる」という目的で市内の小学校4、5年生の10人と年間を通して郷土の自然について学んでいます。本市の自然の素晴らしさを自ら体験・発見するだけではなく、現在起こっている地域の環境問題を知り、解決のための行動だけではなく、野外での

安全な行動について学んでいます。

環境教育には子どもの成長に合わせた学びの段階があり、小学校低学年時に「気づき」、中学年時に「知る」、高学年から中学校時にかけて「考える、行動する」という段階に進むことが良いとされています。しかし、自然への関心が高く、自然のために行動したいという思いを持つレンジャーには、1年を通して3つの段階を踏みながら、自然の多様性、生命性、生産性、関係性、有限性、自然と人の関わりを体験から学ぶ構成としています。そのため、活動では子どもたちの探究心を大切にしており、森林レンジャーが自然について教えるだけではなく、自ら感じ、調べ、考え、行動できる力を育む要素を加えています。その中で、森林レンジャーが行う自然のための活動（2-5「アニマルサンクチュアリ活動」参照）に協力してもらい、自然と向き合う森林レンジャーの姿を見せるということも大切にしています。

令和元年度まで、1年を通して段階的に自然を学び、まとめとして自然のための活動（どんぐり豊凶調査とビオトープ整備）を仲間と協力して行うという年間プログラムを実施していましたが、令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として野外活動のみの単発プログラムに変更して実施していました。通常の活動ができるようになった令和4年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら野外の活動をメインとした年間プログラムを継続しています。

自然のための活動であるどんぐり豊凶調査とビオトープ整備活動は、令和2年度まで中止していましたが、令和3年度から再開しています。

○ 活動の様子





○ 参加者が作成した活動報告書

今日の日記
ビオトープについて知り、自然のためのせいをしよう

自分の目録
多量植物が成長しやすけに木れをいっしょに知る。

昆虫と木
木が枯れていくことは人間にとって
は悪いことでもあるけれど、
必要なたまごがあるのね。たまたま
で、必要なたまごがあるのね。たまたま
いくとも大分であることも知らず。
冬にビオトープをせいでいるわけは、
動物がどうかしていて、いまなら
ないから、まだ知らず。

ヤマドリ

研究
鬼眼
赤皮中身種

今日ふしぎに思ったこと、家に帰って調べてわかったこと

また、植花にはイガがある、イガを力な
イガになる。イガは他の果物という皮に
当たると、その中にある栗が果肉と種。
一般的に栗の皮は黒く光っている。
鬼皮が、他の果物の果肉にある。
部分表面の皮(鬼皮)だけむいた皮
つきもののが種。

これから観察したい動植物、今日よかつたことやよくわかつたことがあれば教えてね

今日は、植物園池のどちの西にひびくることができました。
車が物たちの中にいっしょをあげないようにしていることガ
てまで良かったです。

今日の目的
第12回ニレンゲンジャーしどう式、お夏の王将棋の習得を促そう

自分の目標
山の自然を学ぶ

今日見た動植物や、初めて発見したこと

初めての発見したこと

ムササビの木に登れるのを初めて知った。クモの巣のクモを食べようとしていたら、オオムシがカチカチ鳴いて他の虫を食べることを知らせた。

その中で……一匹のおおむしが入り、おしきりに鳴いたこと、驚いてわかつたこと

今朝ふくまに黒い土のはぐみかです。
インターネットでは「ムカデ」の食べ物を説明してあげました。
・ゴキブリ(好食物)・コオロギ・ワタリ・ミミズ
そして、甘い物もカチカチ鳴きますよ。
その他
・魚肉ソーセージ・ウナギ・昆虫ゼリー
など食べて食べるようです。

おすばつちの花がさりました！所々を見ることがなれたので見てみたい。
活動でよりよい場所を自分で見つけたい。おすばつちには感謝するところがある。
おすばつちでこれからの活動をしたい。

これから観察したい動植物や、活動でわかったこと、よくわかったこと